

料配布することや、町内の老人ホームへのヨーグルト寄贈、町内小・中学校、保育所に1,000円分の牛乳券を配

布するなどの対策に取り組んでいる。

J A道中央会 飛田会長(J A幕別町)退任会見 「自給率アップを」 2020年6月3日 任期中にTPP

【札幌】 J A北海道中央会など J Aグループ北海道の定例記者会見が2日、札幌市内で開かれた。23日の総会で退任する道中央会の飛田稔章会長(72) = J A幕別町会長 = は最後の会見に臨み、「組合員の経営と生活をどう守るかという思いで仕事をしてきた」とこれまでを振り返った。



退任あいさつする
飛田会長

飛田氏は2005年に J A道中央会副会長となり、08年から同会会長を務めてきた。定例会見の導入などの情報発信や消費者とのつながり強化を進めたほか、農政のかじ取り役としてリーダーシップを発揮した。

飛田氏は任期中の印象深い出来事として、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)などの国際貿易交渉と農協改革を挙げ、「食料自給率は37%と先進国の中ではとんでもなく低い。大国に輸出ストップの流れが出てきており、日本人が生きていくためには自給率を高めていくことが大事になる」と訴えた。新体制に向けては「安心・安全な食料生産を、消費者の皆さんと一緒に進めてほしい」と述べた。

ホクレンの内田和幸会長と J A北海道厚生連の西一司会長も退任し、 J A北海道信連の佐藤彰会長は再任となる。

取扱高 過去最高318億円 生乳初の14万トン超え J A十勝清水町 2020年6月5日

【清水】 J A十勝清水町(串田雅樹組合長、正組合員454人)の通常総会が4日、同 J Aで開かれた。2019年度は一部の作物で天候不良の影響を受けたものの、主力の酪農・畜産が好調で、農畜産物販売高は過去最高の317億9,900万円(前年度比8.6%増)に達した。

生乳生産量は初めて14万トンを超え、14万3501トン(9.9%増)を記録。販売高は134億5,500万円(11.1%増)だった。肉用牛は、下期に枝肉価格が下落したものの、出荷頭数が増えたことで、販売高は94億5,400万円(14%増)となった。

畑作では、小麦が前年度に不作だった反動で大幅な収量増。ビートは10アール当たり収量、糖分ともに平年を若干上回った。アスパラガスや白菜などの野菜は干ばつ

や高温の影響を受け、生産量を大きく落とした。

総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面議決を中心に開催。今年度も、同 J Aブランド力の強化などに取り組むことを確認した。串田組合長は「新型コロナの世界的流行で、改めて食料の重要性が問われている。まず守るべきは食料だということを、農業界全体で声を上げていきたい」と述べた。

取扱高 過去最高115億円 生乳生産量7%増 J Aうらほろ 2020年6月6日

【浦幌】 J Aうらほろ(林常行組合長、正組合員269人)の通常総会が5日、農業会館で開かれた。19年度の農畜産物取扱高は、前年度比10.3%増で過去最高となる115億5,500万円だった。

農産物取扱高は同17.2%増の53億円(交付金を含む)。6月中旬以降は日照時間、気温ともに平年並みに推移し、小麦は大幅に増収、その他の作物についても平年並みもしくはそれ以上の収量を確保した。

生乳生産量は、同7%増の3万6,785トンと好調を維

持し、生乳取扱高は同10.5%増の38億2,100万円(補給金含む)、畜産取扱高も同5.1%増の62億5,500万円と堅調。当期末処分剰余金は1億8,934万円で、0.5%の出資配当を予定している。

総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面議